



ARAUCO®

2025 年 6 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は朝晩の気温が 10 度を下回る日もあり、5 月には雨も降り始めました。今年の冬の訪れは例年より早いようです。

チリと米国のトランプ関税は 10%の相互関税ですが、引き続きチリ国内では大きな混乱は起きていません。

今年 1-3 月の GDP は年率 2.3%の経済成長率を維持しています。

銅価格はトランプ関税の影響で 4.0 ドルまで下がりましたが、現在は 4.35 ドルまで回復しており、チリ株式市場も堅調な相場が続いています。

為替はドルに対して 950 ペソ前後で推移しており、引き続き為替は安定しています。

ポリチッチ大統領の任期が残り 9 ヶ月となりましたが、次期大統領選挙の有力候補者がまだ見当たらず、チリ国民に盛り上がりはありません。

2. 世界市況

米国と中国の関税戦争について、最悪の事態は避けられそうな状況になってきました。チリサプライヤーは今後の中国向け販売数量が減少する予測ですが、丸太の木取りを大幅に見直す必要性は当面なさそうです。

中近東向け販売は欧州からのホワイトウッド下級材が供給タイトな状況が続いており、先月に引き続き需要は安定しています。

韓国市場の販売数量は昨年後半より減少傾向ですが、毎月のコンテナ配船はアラウコだけでも 400 本を超えています。現地の丸太伐採と製材工場の生産数量はバランスが取れていますが、今後はトランプ関税の影響が出てくることも予想されます。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2025 年 2 月配船（1 番船）は 5 月連休明けに大阪寄港を終えました。

5月配船（2番船）は予定通り6月19日頃に川崎へ入港予定となっています。

7月配船（3番船）は現地を7月後半に出港して、川崎入港は8月下旬頃を予定しています。3番船についてはCMPCが単独で日本向けバルク配船をコンテナ配船へ切り替える予定をしています。

アラウコは他の素材を組み合わせして日本向けバルク配船を継続します。

4番船以降は日本向けバルク配船を維持する為に、中近東向けバルク配船を日本向けより優先して配船スケジュールを組みます。その結果3番船以降の間隔を延ばすことで、1船当たりの販売数量を増やしていく計画です。

b) 梱包市況

5月の連休明け以降の梱包市場は4月と比較して、各地で販売数量が20-30%減少しています。トランプ関税に伴う世界景気の不安要素から物流市況に影響が出始めているようです。今後の見通しが読み難い梱包市況ですが、米国と中国の関税戦争による日本から中国への輸出用梱包材には影響を受けますが、最悪の事態は回避されそうです。上期のチリ輸入数量は前年より約15%減少する見込みですが、梱包需要も減少しており各社の在庫水準は通常レベルです。

今年後半の販売は1番船と2番船の数量がメインになりますので、為替も150円台平均から140円台平均へコストダウンになります。

チリ材業者の春先からの値上げ交渉は西日本を中心に厳しい市況が続いています。

梱包需要も落ち込んでいますので、しばらくは時間をかけながら値上げ交渉を続けていくことになりそうです。

NZ丸太製材業者も5月連休明けから2000円の値上げを交渉中ですが、チリ材同様に、値上げ交渉には時間がかかりそうです。今後入荷するNZ丸太価格も下がりそうですので、製材コストは下がる見込みです。

国産杉製材業者は2000円の値上げが各地で浸透しました。今後も杉丸太の出材増加は厳しく、梱包向け丸太の価格は強含みで推移しそうです。

日本と米国の相互関税交渉はまだ決着がついておらず、今後の交渉に時間がかかる心配が出てきました。輸出企業への影響は避けられませんので、輸出梱包市況には厳しい市況が予想されます。

アラウコは日本向けに対する販売方針に変更はなく、引き続き日本の梱包市場へは安定価格、安定供給を継続していきたい方針です。

以 上